

教育に関する事務の管理及び執行の状況の

点検及び評価の結果報告書

—令和4年度実績—



令和5年9月

栗原市教育委員会

目 次

1 点検・評価制度の概要	1
(1) 趣旨	
(2) 学識経験者の知見の活用	
(3) 点検及び評価の対象 「栗原市教育基本方針」	
2 点検・評価の結果	
【学府くりはらの学校教育】	
創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援	8
いじめを許さない学校づくりの推進	9
一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育 の推進	10
学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成 .	11
健やかな身体を培う体育及び健康教育の充実	15
自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進	16
【学府くりはらの社会教育】	
生涯にわたる学習機会の提供	17
生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実	20
国際理解のための学習や事業の推進	22
文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進	23
文化財の保存・活用と継承活動の推進	24
スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実	26
3 学識経験者の意見	27
4 栗原市教育委員会の今後の方向性	28

1 点検・評価制度の概要

(1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第26条の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の執行状況の点検・評価を行うことで、教育行政の課題や取組の方向性を明らかにします。

また、本報告書を議会に提出するとともに公表することにより、市民への説明責任を果たし、信頼される教育行政の推進を図ります。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項において、点検・評価について教育に関する有識者の知見を活用することが規定されています。

学識者の選定にあたっては、専門的かつ広い観点からの知見を有している方を選定することとし、教育委員会が自己評価を行ったことに対して客観的なご意見をいただくために、現在、教育分野に携わっている方を選定しました。

○ 黒川 修行 氏

【現職】 宮城教育大学大学院教育学研究科 教授

【専門領域】 学校保健、教育保健学

【研究テーマ】 子どもの健康と体力・運動能力、健康教育

(3) 点検及び評価の対象

令和4年度「栗原市教育基本方針」に基づく具体的施策に対し、教育委員会で実施した事務事業について、点検及び評価を行いました。

令和4年度 栗原市教育基本方針

栗原市教育委員会は、次代を担う子どもたちの主体性、社会性、創造性を育み、すべての市民が心身ともに健康で、生涯にわたって学び続ける生涯学習社会の実現など「学府くりはら」形成のため、次のことを基本方針に掲げ、各種教育施策を総合的に推進する。

- 一人一人の可能性を引き出し、生きる力を育む学校づくり
- 共に助け合い、思いやりに満ちた地域社会の創造
- 地域の特性を生かした文化芸術活動の推進
- 楽しさと活力ある生涯スポーツの推進

教育の目標及び具体的施策

「学府くりはら」の学校教育

学校教育の目標

- 創意と活力に満ちた特色ある学校の創造
- 子どもたちの豊かな心の醸成
- 子どもたちの確かな学力の育成
- 子どもたちの健康と体力の向上
- 安全・安心な学校教育の推進

目指す『栗原っ子』像

- 好奇心に満ち 自ら進んで学習する子ども
- 感性豊かで 思いやりとやさしさのある子ども
- 心身ともに健康で たくましく活動する子ども

「学府くりはら」の社会教育

社会教育の目標

- 「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
- 地域に根ざした文化芸術の振興
- 文化財の保存と活用の推進
- 健康の保持増進とスポーツの推進

学校教育の具体的施策

【創意と活力に満ちた特色ある学校の創造】

<p>創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 児童生徒一人一人に応じたきめ細かな学習指導を推進するため、小学校及び義務教育学校の1年生から2年生までは25人を標準とし、その他の学年は35人を標準とする学級編成を実施 ② 個性を伸ばし、児童生徒一人一人に対応した教育を充実するための補助員の配置 ③ 教育環境整備の推進 ④ 幼児の心身の健全な発達を図るための事業の推進 ⑤ 幼児教育の充実と3年間の就園機会を図るための保護者の経済的負担の軽減 ⑥ 経済的理由により、就学困難な児童生徒に対する学用品等の援助 ⑦ 特別支援教育の普及奨励を図るための特別支援学級に在籍している児童生徒の保護者の経済的負担の軽減 ⑧ すべての幼児及び遠距離通学の児童生徒の通園・通学における負担の軽減と安全確保を図るための通園・通学支援 ⑨ 保護者・地域への教育方針、教育目標等の明確な説明と学校評価の実施 ⑩ 学校における「働き方改革」の推進
------------------------------	--

【子どもたちの豊かな心の醸成】

<p>いじめを許さない学校づくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 「栗原市いじめ防止基本方針」や「学校（園）いじめ防止基本方針」に基づく、教育相談等の取組の推進 ② いじめや不登校などの解決に向けた警察や関係機関との円滑な連携と情報共有の推進 ③ いじめ問題の重大事態の調査の実施やいじめ・不登校対策担当者等を中心としたいじめ防止対策体制の強化 ④ いじめの未然防止及び早期発見のための学級生活満足度尺度調査（Q-U調査）等の結果の活用を図る研修会の実施 ⑤ 人間関係づくりや学級活動への意欲、学びや進路選択・実現の意欲に満ちた学級づくりの推進 ⑥ 命を大切にする教育の推進 ⑦ インターネット等の情報やSNSについての正しい活用の仕方を身に付けさせる情報モラル教育の推進
-------------------------	---

<p>一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 自分の夢や目標の実現のためによりよい生き方を主体的に探求する志教育の充実と推進 ② 幼稚園から小学校及び義務教育学校前期課程への円滑な接続を図る教育課程の編成と連携の推進 ③ 教育相談事業の実施とその対応策等の指導・助言の支援 ④ 不登校児童生徒の学校復帰を目指した子どもの心のケアハウス事業と適応指導教室の運営、登校支援ネットワーク事業の活用 ⑤ 支援を必要とする児童生徒への理解を深め、自立と社会参加を目指す特別支援教育の推進と関係機関との連携を図る協議会の開催 ⑥ 特別支援教育コーディネーターのスキルアップと関係機関との連携の推進や校内支援体制の構築を図るための研修会の実施 ⑦ 支援を必要とする児童生徒の保護者等との合意形成と児童生徒の立場に立った適切な就学指導の実施 ⑧ 発達障害や困り感のある児童生徒の教育的ニーズに応じ、関係機関と連携し、生活や学習の困難を改善するための「個別の教育支援計画」及び「個別の教育指導計画」の作成・活用に向けた支援
---	--

【子どもたちの確かな学力の育成】

<p>学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 市独自の研究指定校に勤務する教員を中心に、先進地（秋田県大仙市）に派遣する研修事業を軸とした、より効果的な学力向上対策の共有と推進 ② 教育研究センターを活用した幼児教育・学校教育に関する研究や教職員の交流・研修等の推進 ③ 学力向上に向けた学習指導法の工夫や改善を推進する学校への支援 ④ 全国学力・学習状況調査、県学習意識調査、英語能力測定テスト（英検 I B A）、市独自の標準学力テストの実施と結果分析による課題の把握に基づいた継続的な検証改善サイクルの確立などをはじめとする教員の指導力の向上 ⑤ 教科指導等における I C T の効果的な活用を図るための研修会の実施 ⑥ I C T 環境の充実による個別最適化された児童生徒一人一人の実態に応じた学習の推進 ⑦ 国際理解を深め、英語教育の充実を目指した A L T の配置と教員対象の研修会の実施 ⑧ 自ら学ぶ意欲や問題解決能力の向上及び自主的学習の習慣化の推進 ⑨ 経済的な理由により修学することが困難な生徒や学生に対する奨学資金の貸与
---	--

【子どもたちの健康と体力の向上】

<p>健やかな身体を 培う体育及び健 康教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 体力の向上と生涯スポーツの基礎を培う体育指導の推進 ② 部活動方針に則った時間帯での活動によるバランスの取れた生活習慣の確立 ③ 望ましい食習慣やバランスの取れた食生活確立のための食育の推進 ④ 安全安心な学校給食の提供と食物アレルギー対策の実施 ⑤ 学校保健活動の活性化と学校医等との連携による健康指導の推進 ⑥ 幼児、児童及び生徒並びに教職員の健診事業の継続実施 ⑦ 正しい知識に基づいた感染症防止対策の徹底
---------------------------------------	--

【安全・安心な学校教育の推進】

<p>自らの命を守る ための防災教育 と安全・安心な学 校教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 栗駒山麓ジオパーク等を活用した自らの命を守るための防災教育等の推進 ② 安全教育（生活安全、交通安全、災害安全、防犯対策）の推進 ③ 児童生徒の安全確保を図る校内危機管理体制の確立と関係機関との連携強化 ④ 通学路における安全確保のための関係機関等との連携と適切な対策の推進 ⑤ 学校の防犯、防災及び安全管理体制の整備推進
--	---

社会教育の具体的施策

【「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興】

<p>生涯にわたる学 習機会の提供</p>	<p>【家庭教育の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 子ども及び保護者を対象とした学習機会の提供 ② 地域ぐるみによる家庭教育支援の充実 ③ 関係機関と連携した子育て支援の推進
	<p>【青少年期の活動支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域少年団体の育成と活動の支援 ② 青少年教育推進体制の整備 ③ 学習、交流活動の機会と場の提供 ④ 協働教育事業の推進 ⑤ 放課後児童健全育成の推進 ⑥ 青年団体及びサークルの育成、支援

	<p>【成年期の活動支援】</p> <p>① 学習、交流活動の機会と活動の場の提供及び支援</p> <p>② 成人教育体制の整備を目標とする生涯学習団体及び指導者等の育成</p> <p>③ 高齢者の健康・生きがいつくり事業の提供</p>
生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実	<p>① 各種教育機関と連携した各種講座・教室・活動の開催</p> <p>② 学習情報の提供</p> <p>③ 地域の人材活用を図るための指導者の発掘と育成</p> <p>④ 市民の学習ニーズの把握</p> <p>⑤ 社会教育施設の充実と学習環境の整備</p> <p>⑥ コミュニティ事業と連携した生涯学習の推進</p> <p>⑦ 図書館及び図書室が連携したサービスの充実</p>
国際理解のための学習や事業の推進	<p>① 外国人との交流事業の推進</p> <p>② 国際交流関係団体との連携強化</p>

【地域に根ざした文化芸術の振興】

文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進	<p>① 文化芸術を生かした活動の推進と自主活動への支援</p> <p>② 文化芸術事業の開催及び鑑賞する機会の提供</p> <p>③ 文化芸術体験機会の拡充</p> <p>④ 文化施設の設備充実と環境整備</p>
--------------------------	---

【文化財の保存と活用の推進】

文化財の保存・活用と継承活動の推進	<p>① 地域の文化財の調査、保存・活用と公開</p> <p>② 史跡等の環境整備の推進</p> <p>③ 文化財への理解と保護に対する関心を高めるための広報活動の充実</p> <p>④ 伝統文化の継承と後継者育成の支援</p>
-------------------	--

【健康の保持増進とスポーツの推進】

スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実	<p>① スポーツを行う場の提供と、市民の健康づくりや体力づくりへの支援</p> <p>② スポーツ指導者の育成・指導とスポーツ人口の拡大</p> <p>③ 全日本中学生ホッケー選手権大会の開催</p> <p>④ 各種スポーツ大会における関係団体や学校との連携強化</p> <p>⑤ 社会体育施設の設備充実と環境整備</p> <p>⑥ 総合型地域スポーツクラブの組織づくりへの支援</p>
------------------------	--

2 点検・評価の結果

点検及び評価項目一覧（令和4年度実績）

基本方針	基本目標	具体的施策	具体的事業	自己評価
一人一人の可能性を引き出し、生きる力を育む学校づくり	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援	1 幼稚園、学校のウェブサイト等による情報発信	A
	子どもたちの豊かな心の醸成	いじめを許さない学校づくりの推進	2 「命を大切にせる教育」の実践	B
		一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進	3 学校教育支援室活用事業	B
	子どもたちの確かな学力の育成	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成	4 教育研究センター事業	A
			5 学力向上対策プロジェクト事業	B
			6 学校ICT推進事業	C
			7 小学校英語教育推進事業、語学指導外国青年招致事業	B
子どもたちの健康と体力の向上	健やかな身体を培う体育及び健康教育の充実	8 全国体力・運動能力調査の結果分析と改善のための対策の推進	B	
安全・安心な学校教育の推進	自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進	9 地域と連携した防災訓練等の実施	B	
共に助け合い、思いやりに満ちた地域社会の創造	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興	生涯にわたる学習機会の提供	10 ジュニア・リーダー育成事業・派遣事業	C
			11 少年体験教室事業、合宿通学、児童・生徒新春書初め会、子ども陶芸教室等	A
			12 市民セミナー（陶芸教室、園芸教室、手芸講座、女性講座、高齢者講座等）	B
	生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実	13 協働教育推進事業	B	
		14 栗原市立図書館及び公民館図書室の読書活動推進（図書館まつり、ブックラリー、子どもの絵本展示会）	B	
		15 国際理解のための学習や事業の推進	—	
地域の特性を生かした文化芸術活動の推進	地域に根ざした文化芸術の振興	文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進	16 栗原みてけらいん美術展ほか各種展覧会、各種芸術鑑賞会	B
	文化財の保存と活用の推進	文化財の保存・活用と継承活動の推進	17 文化財標柱等整備事業	A
			18 文化財普及啓発活動事業	B
楽しさと活力ある生涯スポーツの推進	健康の保持増進とスポーツの推進	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実	19 栗原市小学校陸上競技大会ほか各種大会（高校陸上大会、栗原ハーフマラソン大会、体力・運動能力調査ほか）	B

施策体系	基本方針	一人一人の可能性を引き出し、生きる力を育む学校づくり	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造																				
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援		担当課 学校教育課																				
1 目的																								
次代を担う人材の育成と豊かな人間形成を目指し、心身ともに健康で「知性と創造性に富み、心豊かでたくましい人間の育成」に努めるため、多様な方策による学校経営への支援を行い、創意と活力に満ちた特色ある学校を創造する。																								
2 具体的事業																								
施策を構成する事業			目標指標																					
1 幼稚園、学校のウェブサイト等による情報発信			幼稚園、学校のウェブサイト等による情報発信回数																					
事業概要及び目標			現状値（令和3年度） 幼稚園 12.0/10.0回 達成率 120.0% 小学校 34.3/20.0回 達成率 171.5% 中学校 19.2/25.0回 達成率 76.8% 目標値（令和4年度） 幼稚園 10.0回 実績12.0回 達成率120.0% 小学校 20.0回 実績20.9回 達成率104.5% 中学校 25.0回 実績24.7回 達成率 98.8% ※義務教育学校（金成小中学校）は、小学校に含む																					
開かれた幼稚園・学校を目指し、幼稚園・学校だより等を定期的に発行するとともに、ウェブサイト等での情報発信を適切に行う。ウェブサイト等の内容として、幼稚園・学校だよりのほか、行事等を掲載し、広く住民に学校活動の周知を図る。																								
3 令和4年度の取組と自己評価																								
取組と成果																								
幼稚園については、学校教育課で作業を行い、計画的に更新することができた。小・中学校では、新型コロナウイルス感染症感染対策により、学校行事が計画どおり実施できず、予定していた更新ができなかったため、目標に達することができない学校もあった。																								
<p style="text-align: center;">【達成状況】 （単位：園、校、回）</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>園・校数</th> <th>達成園・校数</th> <th>平均更新回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>12.0</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>12</td> <td>6</td> <td>20.9</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>24.7</td> </tr> <tr> <td>計（平均）</td> <td>27</td> <td>17</td> <td>18.7</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※義務教育学校（金成小中学校）は、小学校に含む</p>						園・校数	達成園・校数	平均更新回数	幼稚園	9	9	12.0	小学校	12	6	20.9	中学校	6	2	24.7	計（平均）	27	17	18.7
	園・校数	達成園・校数	平均更新回数																					
幼稚園	9	9	12.0																					
小学校	12	6	20.9																					
中学校	6	2	24.7																					
計（平均）	27	17	18.7																					
評価																								
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																							
4 令和5年度に向けた課題・今後の方針																								
目標を達成できなかった小・中学校がある。		➡	目標達成に向け計画的に更新できるよう、サイトの掲載項目の見直しを促す。																					
5 学識経験者の意見																								
Webサイトが栗原市のWebサイト内に組み込まれたことにより、素早くアクセスすることができるようになったと感じました。その一方でコンテンツが画一的になってしまった感があります。なお、具体的な更新方法が分からないところですが、緊急事態などの公表をWebサイトで行う際に、学校側で直接行う事ができず、スムーズな情報共有などに支障が出ていないか、検証した方がよいと考えられました。																								

施策体系	基本方針	一人一人の可能性を引き出し、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの豊かな心の醸成
	具体的施策	いじめを許さない学校づくりの推進		担当課 学校教育課

1 目的

いじめを許さない学校づくりを推進し、豊かな心を育む教育の推進と、問題の未然防止と早期発見・早期対応に努める。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標																								
2「命を大切にせる教育」の実践	全国学力・学習状況調査において「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答する児童生徒の割合																								
事業概要及び目標	<table border="1"> <tr> <td>現状値（令和3年度）</td> <td>小学6年生</td> <td>96.2%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学3年生</td> <td>95.8%</td> </tr> <tr> <td>目標値（令和4年度）</td> <td>小学6年生</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学3年生</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値（令和4年度）</td> <td>小学6年生</td> <td>96.4%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学3年生</td> <td>97.8%</td> </tr> <tr> <td>達成率（令和4年度）</td> <td>小学6年生</td> <td>96.4%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学3年生</td> <td>97.8%</td> </tr> </table>	現状値（令和3年度）	小学6年生	96.2%		中学3年生	95.8%	目標値（令和4年度）	小学6年生	100.0%		中学3年生	100.0%	実績値（令和4年度）	小学6年生	96.4%		中学3年生	97.8%	達成率（令和4年度）	小学6年生	96.4%		中学3年生	97.8%
現状値（令和3年度）	小学6年生	96.2%																							
	中学3年生	95.8%																							
目標値（令和4年度）	小学6年生	100.0%																							
	中学3年生	100.0%																							
実績値（令和4年度）	小学6年生	96.4%																							
	中学3年生	97.8%																							
達成率（令和4年度）	小学6年生	96.4%																							
	中学3年生	97.8%																							
いじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めるため、命を大切に、自己肯定感を持てるような授業づくりを推進する。また、確実な実施に向けた授業支援と学校評価項目への位置付けにより、進捗状況の管理に努め、命を大切にせる児童生徒の育成を目指す。																									

3 令和4年度の取組と自己評価

取組と成果

「命を大切にせる教育」を生徒指導面のみならず、防災教育や福祉教育、新型コロナウイルス感染症感染対策における保健指導等の様々な教育活動の中で、意図的、計画的に指導していくことを各学校の教育計画へ位置付けることとしている。

各学校では、新型コロナウイルス感染症感染対策による臨時休業以降、これまで以上に一人一人に寄り添って生徒指導や教育相談等に取り組んだ。その結果、温かい雰囲気の中で学級づくりや学年づくりが行われ、落ち着いた学校活動を実践することができた。

	宮城県	栗原市
あてはまる	83.2%	81.9%
どちらかと言えば、あてはまる	13.4%	14.5%
どちらかと言えば、あてはまらない	2.3%	1.9%
あてはまらない	1.1%	1.7%
その他、無回答	0.0%	0.0%

	宮城県	栗原市
あてはまる	83.5%	85.4%
どちらかと言えば、あてはまる	13.1%	12.4%
どちらかと言えば、あてはまらない	2.4%	1.3%
あてはまらない	1.0%	0.9%
その他、無回答	0.0%	0.0%

※全国学力・学習調査の設問と回答状況

評価

B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和5年度に向けた課題・今後の方針

前年度と比較し、児童生徒ともに「いじめはいけないこと」とする回答が増えている。一方で「そうではない」と回答する小学生の割合が、宮城県を上回っている。児童生徒全員に「いじめは絶対にいけないもの」という意識を持たせるような指導が必要である。



質問紙調査結果の活用と共に、QU活用研修会や生徒指導担当者会等の各種研修会をとおして、誰もが居心地の良い学級づくりを推進し、いじめを許さない子どもたちに育てていけるよう指導する。また、QUの結果を、学級づくりと児童生徒一人一人への対応に活かすよう指導していく。

5 学識経験者の意見

これまで同様に非常に高い目標率を示していると思います。その一方で自己評価に示されているように「いじめがいけないこと」と思わない児童・生徒が一定程度存在していることが気になるところです。引き続き、子どもとともに様々な観点、機会丁寧に取り組む必要にある課題と考えられました。

施策体系	基本方針	一人一人の可能性を引き出し、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの豊かな心の醸成																																																		
	具体的施策	一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進	担当課 学校教育課																																																			
1 目的																																																						
一人一人に夢と希望を持たせ、人間性豊かな心と主体的・自立的な態度の育成と障害のある児童生徒の自立と社会参加を目指す特別支援教育の推進を図る。 また、豊かな心と主体的・自立的な態度を育成するための教育相談事業や、不登校等に悩む児童生徒の自発的な学校復帰や教室復帰と社会的自立を目指し、児童生徒に教育的ニーズに応じた支援を実施する。																																																						
2 具体的事業																																																						
施策を構成する事業			目標指標																																																			
3 学校教育支援室活用事業																																																						
事業概要及び目標			不登校・不登校相当・準不登校児童生徒の「心のケアハウス」や「適応指導教室」等の活用割合																																																			
不登校及びその傾向にある児童生徒や学習継続困難等の課題を抱える児童生徒への「支援」を行うため、適応指導教室（けやき教室）と心のケアハウスとの連絡調整を図る学校教育支援室を設置している。 適応指導教室（けやき教室）と心のケアハウスには、在学青少年指導員や心のケアスーパーバイザー、学習サポーター等を配置し、互いに連携し、学校復帰や教室復帰、自分の進路を主体的に捉えて社会的に自立させること等を目指し、個に応じたアセスメントを行った上で、学習支援や精神的支援等を行う。			現状値（令和3年度） 7.7%（15人/194人） 目標値（令和4年度） 10.0% 実績値（令和4年度） 9.6%（21人/219人） 達成率（令和4年度） 96.0%																																																			
3 令和4年度の取組と自己評価																																																						
取組と成果																																																						
心のケアハウス及びけやき教室、関係機関がスムーズな連携を図れるよう学校教育支援室を整備し、不登校及び別室登校等の不登校傾向の児童生徒の実態に応じた支援に取り組んだ。 不登校児童生徒93人、不登校相当児童生徒35人、準不登校児童生徒91人、合計219人のうち、けやき教室には7人の児童生徒の通所があり、生徒の実態に応じて学習支援を行ったり心の居場所づくりを行ったりして自立支援を図った。その結果、部分登校（別室登校や定期考査受験）ができるようになった生徒が4人おり、生徒の変容が見られるようになった。また、けやき教室に通所した中学3年生の3人（体験通所を含む）全員が、希望する高校や支援学校高等部への進学を果たすことができた。 心のケアハウスでは、早期に不登校及び別室登校等の対応に応じるため、学校からの要請に応じて学習サポーターを派遣し、児童3人、生徒11人の別室での学びサポートを行った。継続的な別室登校等により不登校にはカウントされなかった児童が1人、生徒が1人おり、不登校の未然防止として効果が発揮された。また、昨年度よりも欠席日数が減少した生徒が5人見られた。																																																						
<table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <thead> <tr> <th colspan="5">不登校児童生徒（欠席日数30日以上）</th> </tr> <tr> <th>事業名</th> <th>区分</th> <th>小学生</th> <th>中学生</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>けやき教室</td> <td>正式通所者</td> <td>2人</td> <td>5人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>心のケアハウス</td> <td>学びサポート</td> <td>2人</td> <td>10人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計</td> <td>4人</td> <td>15人</td> <td>19人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="display: inline-table;"> <thead> <tr> <th colspan="5">不登校児童生徒以外（不登校相当・準不登校）</th> </tr> <tr> <th>事業名</th> <th>区分</th> <th>小学生</th> <th>中学生</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>けやき教室</td> <td>正式通所者</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>心のケアハウス</td> <td>学びサポート</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table>					不登校児童生徒（欠席日数30日以上）					事業名	区分	小学生	中学生	合計	けやき教室	正式通所者	2人	5人	7人	心のケアハウス	学びサポート	2人	10人	12人	計		4人	15人	19人	不登校児童生徒以外（不登校相当・準不登校）					事業名	区分	小学生	中学生	合計	けやき教室	正式通所者	0人	0人	0人	心のケアハウス	学びサポート	1人	1人	2人	計		1人	1人	2人
不登校児童生徒（欠席日数30日以上）																																																						
事業名	区分	小学生	中学生	合計																																																		
けやき教室	正式通所者	2人	5人	7人																																																		
心のケアハウス	学びサポート	2人	10人	12人																																																		
計		4人	15人	19人																																																		
不登校児童生徒以外（不登校相当・準不登校）																																																						
事業名	区分	小学生	中学生	合計																																																		
けやき教室	正式通所者	0人	0人	0人																																																		
心のケアハウス	学びサポート	1人	1人	2人																																																		
計		1人	1人	2人																																																		
評価																																																						
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）																																																					
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）																																																					
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）																																																					
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																																					
4 令和5年度に向けた課題・今後の方針																																																						
学校への情報提供により、活用する学校が増えてきたが、保護者の理解がまだ十分とは言えないため、不登校児童生徒の活用割合は、まだ低い状態である。			➡																																																			
学校教育支援室から学校への情報提供、学校をとおした保護者への情報提供、広報等を活用した市民への情報提供等を積極的に行っていく。																																																						
5 学識経験者の意見																																																						
非常に高い実施率であったと考えられましたが、活用の割合としては、必ずしも高くない数値でした。しかしながら、非常に細やかな配慮が必要な対応が必要であることから、簡単には活用割合を上げる訳にはいかないと考えられます。今後の学校教育においては、より重要性の増す事業であると考えられることから、高過ぎない目標値を設定するとともに、市民への事業のアピールが必要と思われました。																																																						

施策体系	基本方針	一人一人の可能性を引き出し、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成								
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課								
1 目的												
幼児・児童生徒一人一人の「生きる力」の要素である「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を育む教育及び個性を生かす教育を推進するため、教職員の資質・能力と指導力の向上を図る。												
2 具体的事業												
施策を構成する事業			目標指標									
4 教育研究センター事業			研修受講者の満足度 （「大変参考になった」と「参考になった」の合計）									
事業概要及び目標			<table border="1"> <tr> <td>現状値（令和3年度）</td> <td>98.9%</td> </tr> <tr> <td>目標値（令和4年度）</td> <td>99.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値（令和4年度）</td> <td>99.2%</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>100.2%</td> </tr> </table>		現状値（令和3年度）	98.9%	目標値（令和4年度）	99.0%	実績値（令和4年度）	99.2%	達成率	100.2%
現状値（令和3年度）	98.9%											
目標値（令和4年度）	99.0%											
実績値（令和4年度）	99.2%											
達成率	100.2%											
交流・研修事業、学力調査等の分析、教育情報の収集・提供、児童生徒への学習支援、児童生徒及び保護者、教員の教育相談の拠点として、「学府くりはら」の着実な実現を図るため、センターで実施する研修内容の充実を図り受講者全員に満足してもらえる研修会を目指す。特に、個別最適な学び・協働的な学びの推進に向け、ICT機器を活用した授業力向上と国際感覚豊かな人材育成のための、外国語教育を指導する教職員の授業力向上及び、次代を担う幼稚園中堅教員の園経営力向上を図る研修を充実させる。												
3 令和4年度の取組と自己評価												
取組と成果												
<p>今年度は、多くの研修会を対面型で実施することができた。新型コロナウイルス感染症が拡大傾向にある際には、オンラインを活用するなど市内教職員の学びを止めないようにした。若い教職員の増加や児童生徒の学びに向かう姿勢の変化など学校現場における各種課題解決のため、今年度も授業づくり研修会の充実を努めた。また、今後「幼児教育と小学校教育の接続・連携」が重要な教育課題となっていくことを考慮し、幼稚園長・主任等研修会において、小学校教員等の参加を可能とした講演会を実施した。</p> <p>○「算数・数学授業づくり研修会」（満足度100% 活用度89%） 大仙市派遣教員を中心に、算数・数学科の授業の充実を図った。プランシートを活用した授業づくりについての満足度は100%となった。しかし、活用度において89%となり、さらに実践に即した研修の必要性が出てきている。</p> <p>○「外国語教育研修会（小・中学校別）」（満足度100% 活用度95%） 今年度は、校種ごとに日々の授業実践の中から課題を持ち寄り、その解決に向けた研修を実施した。同じ校種での研修ということで、各自の課題解消に向けて効果的だった。しかし、児童生徒が身に付けた力を、小中学校間の連携の中でさらに向上させる必要が出てきている。</p> <p>○「ICT活用授業づくり研修会」の実施（満足度100% 活用度92%） タブレット端末導入3年目。児童生徒及び教職員の操作技能も格段に向上してきている。そのため、授業での効果的活用の仕方をグループで検討しながら、これまでよりもより実践的な研修会を実施した。授業での活用度も高いが、ICT機器の活用については日々進化しているため、今後も継続して研修を実施する必要が出てきている。</p> <p>研修全体では、満足度が目標値を上回った。これまでの研修内容をさらに充実させるとともに、新たな教育課題に対応した研修会の実施を今後目指していく必要がある。</p>												
評価												
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）											
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）											
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）											
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）											
4 令和5年度に向けた課題・今後の方針												
<p>授業技術の継承、不登校児童生徒の増加、小1プロブレムなど本市においても多くの教育課題が浮上してきている。また、タブレット端末導入4年目に向けて、個別最適な学びや協働的な学びへの効果的な活用のため、研修が必要となってきている。</p>		➡	<p>授業技術の継承（ICTの効果的な活用を含む）、行きたくなる学級づくり、幼児教育と小学校教育の連携・接続を重点に研修を実施し、学力の向上を目指していく。</p>									
5 学識経験者の意見												
これまで同様に非常に高い研修受講者の満足度が示されており、質を維持しながらセンター事業に取り組まれていることを確認することができました。新型コロナウイルス感染症への対応が変わったこともあり、学校現場でも新たな教育課題が生まれる可能性もあります。引き続き、各学校と連携を保ちながら、事業を展開することが期待されました。												

施策体系	基本方針	一人一人の可能性を引き出し、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成																																															
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課																																															
1 目的																																																			
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。																																																			
2 具体的事業																																																			
施策を構成する事業		目標指標																																																	
5 学力向上対策プロジェクト事業		「全国学力・学習状況調査」の全国平均正答率との差																																																	
事業概要及び目標		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状値 (令和3年度)</th> <th>目標値 (令和4年度)</th> <th>実績値 (令和4年度)</th> <th>達成率 (令和4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>国語</td> <td>▲5.0</td> <td>0.0</td> <td>▲5.0</td> <td>92.4%</td> </tr> <tr> <td>算数</td> <td>▲7.0</td> <td>0.0</td> <td>▲6.0</td> <td>90.5%</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>国語</td> <td>▲5.0</td> <td>0.0</td> <td>▲2.0</td> <td>97.1%</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>▲8.0</td> <td>0.0</td> <td>▲11.0</td> <td>78.4%</td> </tr> </tbody> </table>				現状値 (令和3年度)	目標値 (令和4年度)	実績値 (令和4年度)	達成率 (令和4年度)	小学校					国語	▲5.0	0.0	▲5.0	92.4%	算数	▲7.0	0.0	▲6.0	90.5%	中学校					国語	▲5.0	0.0	▲2.0	97.1%	数学	▲8.0	0.0	▲11.0	78.4%												
	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和4年度)	実績値 (令和4年度)	達成率 (令和4年度)																																															
小学校																																																			
国語	▲5.0	0.0	▲5.0	92.4%																																															
算数	▲7.0	0.0	▲6.0	90.5%																																															
中学校																																																			
国語	▲5.0	0.0	▲2.0	97.1%																																															
数学	▲8.0	0.0	▲11.0	78.4%																																															
栗原市独自の、学力向上研究指定校事業に基づく研究指定校により、学校における質の高い学びの実現を目指す実践研究を推進する。特に、小中連携や探究型の学習をさらに推進するとともに、ICT機器を効果的に活用した学習を積極的に取り入れ、その成果と課題の共有を図ることにより、児童生徒の学力向上を目指す。		※達成率は全国平均を100%とした時の栗原市平均の割合																																																	
3 令和4年度を取組と自己評価																																																			
取組と成果																																																			
<p>今年度も「学力向上研究指定校事業」と「学力向上研究推進協議会」の2つを中心に実施した。</p> <p>「学力向上研究指定校事業」については、平成29年度より市内全ての小中学校を2カ年ずつ3つのグループに分けて指定しており、令和3年度からの2年間は、築館中学校区と栗原南中学校区の小中学校6校を指定して実施した。10月に築館中学校区、11月に栗原南中学校区の学校が公開研究会を行い、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の在り方や、個別最適な学びや協働的な学びによる授業づくり等について発表した。</p> <p>「学力向上研究推進協議会」については、全ての学校の研究主任及び指定校の校長で構成しており、今年度は4回実施した。会議の中で指定校の研究発表や学力向上に係る取組についての情報交換等を行い、それぞれの成果と課題が共有され、各校の授業づくりに活かされた。</p> <p>指標としている全国学力・学習状況調査の結果では、目標値を達成できなかった。学力向上の要である授業づくりと併せ、業前活動や家庭学習等、授業以外の場面での学力向上策を講じていく必要がある。</p>																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">令和4年度</th> <th colspan="3">令和3年度</th> </tr> <tr> <th>全国</th> <th>宮城県</th> <th>栗原市</th> <th>全国</th> <th>宮城県</th> <th>栗原市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">小学校</td> <td>国語</td> <td>66</td> <td>64</td> <td>61</td> <td>国語</td> <td>65</td> <td>63</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>算数</td> <td>63</td> <td>60</td> <td>57</td> <td>算数</td> <td>70</td> <td>68</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中学校</td> <td>国語</td> <td>69</td> <td>69</td> <td>67</td> <td>国語</td> <td>65</td> <td>65</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>51</td> <td>49</td> <td>40</td> <td>数学</td> <td>57</td> <td>55</td> <td>49</td> </tr> </tbody> </table>						令和4年度			令和3年度			全国	宮城県	栗原市	全国	宮城県	栗原市	小学校	国語	66	64	61	国語	65	63	60	算数	63	60	57	算数	70	68	63	中学校	国語	69	69	67	国語	65	65	60	数学	51	49	40	数学	57	55	49
	令和4年度			令和3年度																																															
	全国	宮城県	栗原市	全国	宮城県	栗原市																																													
小学校	国語	66	64	61	国語	65	63	60																																											
	算数	63	60	57	算数	70	68	63																																											
中学校	国語	69	69	67	国語	65	65	60																																											
	数学	51	49	40	数学	57	55	49																																											
評価																																																			
B	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)</p> <p>C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)</p> <p>D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)</p>																																																		
4 令和5年度に向けた課題・今後の方針																																																			
中学校区毎、授業づくりと授業以外の場面の取組について話し合いを行い、実践してきたが、家庭学習の手引きに活用や学びなおし実施などで、十分に行われていない学校がみられた。		 <p>学力向上研究指定校事業は終了したものの、「くりはら学びのスタイル」の充実に向けて、学校間の連携をさらに深め、授業の質を高めるとともに、授業以外の場面での学力向上の取組や、家庭学習への支援について改善を図っていく。</p>																																																	
5 学識経験者の意見																																																			
一部の学校で十分な取り組みができていなかったことの報告は危惧される点です。また家庭学習への具体的な支援の仕方について、精査する必要があるかもしれません。さらには、学校現場では、大変多忙なこともあり、先生方の教材研究が十分でない可能性もあります。学力向上にはこのような点からのアプローチも必要ではないでしょうか。																																																			

施策体系	基本方針	一人一人の可能性を引き出し、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成		
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課		
1 目的						
整備されたICT機器を効果的に活用し、学習活動の一層の充実と主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を通し、児童生徒が継続的に学び続けようとする意欲や豊かな創造性、多様な人々と協働しながら課題を解決するなどの力を育む。						
2 具体的事業						
施策を構成する事業			目標指標			
6 学校ICT推進事業			タブレット端末を週1回以上持ち帰りしている学級の割合			
事業概要及び目標			現状値	目標値	実績値	達成率
ICT活用モデル校を中心に一人一台端末の環境を有効に活用した授業改善を推進し、主体的に学び続けようとする意欲や豊かな創造性などの学力向上に向け、ICT機器を積極的に活用する。			(令和3年度)	(令和4年度)	(令和4年度)	(令和4年度)
小学校			70.1%	100.0%	49.0%	49.0%
中学校			56.3%	100.0%	71.6%	71.6%
3 令和4年度の取組と自己評価						
取組と成果						
ICT機器の活用による、児童生徒の課題解決能力を育成するために、情報教育担当及びICT教育担当教員の授業力向上を図るとともに、校内研修の進め方や、その具体的な計画作成の仕方についての研修を行った。このことにより、各学校における有益なICT活用の実践が進み、主体的・対話的で深い学びに繋げる土台を整備することができた。目標指標であるタブレットの持ち帰りについては、小学校低学年ではタブレットを用いた宿題の取り組みは困難であり、低調な実績となった。						
ICT活用授業づくり研修会①～③						
【ねらい】 ICT活用について研修を深め、各校での教科指導におけるICT活用推進に資するとともに、教員のICT活用に係る知識と技能の向上を図る。またICT活用推進リーダーを育成する。						
【対象】 市内小中学校情報教育担当、ICT担当等各校1名						
【時間】 1時間40分程度						
内 容						
①5/13(金) ICT担当者の役割(講話) 「GIGAスクール端末を有効に活用した授業づくりと情報推進リーダーの役割」						
②9/15(木) ICTを活用した授業づくりⅠ 宮城県総合教育センター「情報教育に関する研修」伝講会 (1) ICTを活用した授業の実際と行内研修の進め方 (2) プログラミング教育研修会						
③12/2(金)・9(金) ICTを活用した授業づくりⅡ ICTを効果的に活用した授業実践(授業研究) (小学校) 第6学年算数科:考える力を伸ばそう「関係に注目して」 第5学年国語科:反対の立場を考えて意見文を書こう (中学校) 第1学年理科:身のまわりの現象/第3章力の世界/第2節力のはかり方						
評 価						
C	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)					
	B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)					
	C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)					
	D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)					
4 令和5年度に向けた課題・今後の方針						
公開研究会や授業公開等の機会に、各校のICT活用の取組について協議を行い、学習のねらいに即した効果的な活用について検討する。			➡	各校、効果的な活用の検討を図り、その活用状況を共有化するため、公開研究会や研修会等の場を引き続き設ける。		
5 学識経験者の意見						
タブレット端末を持ち帰りすることの難しさが明確になった事例と考えられます。特に管理の観点から、非常に難しい目標ではないかと思われました。この目標は家庭との更なる連携も必要なことから、指標の再考が必要とも捉えられます。なお、学校におけるICT事業は生成AIなど新たな対応もあり、柔軟な事業設計が求められると考えられます。						

施策体系	基本方針	一人一人の可能性を引き出し、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課
1 目的				
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業			目標指標	
7 小学校英語教育推進事業、語学指導外国青年招致事業			中学2年生の英語能力測定テスト（I B A）の実用英語技能検定4級相当以上の割合 現状値(令和3年度) 38.3% (174人/454人) 目標値(令和4年度) 50.0% 実績値(令和4年度) 36.4% (162人/445人) 達成率(令和4年度) 72.8%	
事業概要及び目標				
A L Tを活用した指導の工夫と実践の累積により、外国語に興味関心を持たせる。また、J E Tプログラムにより、各中学校に外国語指導助手を配置し、生徒の外国語教育充実と国際理解を深める。				
3 令和4年度の取組と自己評価				
取組と成果				
小学校（義務教育学校前期課程含む）に民間へ業務委託しているA L T（ノンJ E T）を4人、中学校（義務教育学校後期課程含む）に国の外国青年招致事業のA L T（J E T）を7人配置した。 中学2年生について、「英語能力測定テスト」で4級以上に合格する生徒の割合を指標としており、令和4年度は目標値を達成できなかった。しかし、令和3年度と比較すると「リスニング」の平均正答率については2年連続で向上しており、A L Tを活用した指導の成果と考えられる。				
A L T設置状況				
	小学校・義務教育学校（前期課程）		小学校・義務教育学校（後期課程）	
	校数	学校名	校数	学校名
J E T	1校	志波姫小	7校	築館中、若柳中、栗駒中、栗駒南中、栗原西中、志波姫中、金成小中（後期）
J E T以外	11校	築館小、宮野小、若柳小、栗駒小、栗駒南小、高清水小、一迫小、瀬峰小、鶯沢小、花山小、金成小中（前期）	—	
評 価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）			
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）			
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）			
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）			
4 令和5年度に向けた課題・今後の方針				
担任や英語担当教員とA L Tとの連携を深め、さらに英語の質を高めていく必要がある。			➡	A L Tの勤務時間の中で、打合せの時間を確保し、授業のねらいや役割分担についてしっかりと共通理解して授業を行えるようにする。
5 学識経験者の意見				
現状値や目標値に対して、実績値が伸び悩んだ結果が示されていました。A L T等を導入することで質を高めることができるとは考えられますが、普段からある程度のレベルで外国語に触れる機会を創出する必要があると考えられます。なお、事業の特性からも、単に英語の成績を上げるといった内容にならないように注意する必要があります。				

施策体系	基本方針	一人一人の可能性を引き出し、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの健康と体力の向上
	具体的施策	健やかな身体を培う体育及び健康教育の充実		担当課 学校教育課

1 目的

健やかな身体を培う体育・健康教育の充実を進め、心身の健康と体力の向上を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標																																			
8 全国体力・運動能力調査の結果分析と改善のための対策の推進	児童生徒の体力・運動能力調査における合計点の全国平均との差																																			
事業概要及び目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状値 (令和3年度)</th> <th>目標値 (令和4年度)</th> <th>実績値 (令和4年度)</th> <th>達成率 (令和4年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5年(男)</td> <td>0.5</td> <td>0.0</td> <td>▲1.5</td> <td>97.1%</td> </tr> <tr> <td>5年(女)</td> <td>0.3</td> <td>0.0</td> <td>0.2</td> <td>100.4%</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2年(男)</td> <td>0.2</td> <td>0.0</td> <td>▲1.7</td> <td>95.8%</td> </tr> <tr> <td>2年(女)</td> <td>0.4</td> <td>0.0</td> <td>▲0.7</td> <td>98.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※達成率は全国平均を100%とした時の栗原市平均の割合</p>		現状値 (令和3年度)	目標値 (令和4年度)	実績値 (令和4年度)	達成率 (令和4年度)	小学校					5年(男)	0.5	0.0	▲1.5	97.1%	5年(女)	0.3	0.0	0.2	100.4%	中学校					2年(男)	0.2	0.0	▲1.7	95.8%	2年(女)	0.4	0.0	▲0.7	98.5%
	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和4年度)	実績値 (令和4年度)	達成率 (令和4年度)																																
小学校																																				
5年(男)	0.5	0.0	▲1.5	97.1%																																
5年(女)	0.3	0.0	0.2	100.4%																																
中学校																																				
2年(男)	0.2	0.0	▲1.7	95.8%																																
2年(女)	0.4	0.0	▲0.7	98.5%																																
すべての学校で実施している「全国体力・運動能力調査」の結果を分析する。その結果から、各校の努力事項を明確にし、課題解決に向け、特定の種目に特化した取組を実施することにより、体力向上が図れるよう働きかける。																																				

3 令和4年度取組と自己評価

取組と成果

新型コロナウイルス感染症感染対策による保健体育の授業や中学校の部活動、スポーツ少年団活動の制限等が影響したこともあり、全国的に体力合計得点の低下が見られた中、市内の小中学校でも男女ともに昨年度の記録を下回る結果となった。ただし、小学5年女子については、昨年度と同様、全国平均を上回ることができた。

各学校においては、保健体育科の授業において、ソーシャルディスタンスを意識した運動を積極的に導入するとともに、各種運動に応じた学習カードを活用し、目標を持たせて活動に取り組ませることによって体力の向上に努めた。

また、休憩時間において、マラソンカードや縄跳びカードを活用して、積極的に運動に取り組ませたり、グラウンドにラインを引いて興味を持たせるような場の設定を行ったりして、児童生徒が運動に親しみやすいような工夫を行うなどの取組を行った。

体力合計点	令和4年度			令和3年度		
		全国	栗原市		全国	栗原市
小学5年	男子	52.28	50.78	男子	52.52	53.01
	女子	54.31	54.51	女子	54.64	54.98
中学2年	男子	41.04	39.33	男子	41.18	41.37
	女子	47.42	46.69	女子	48.56	48.97

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
- B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
- C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
- D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

4 令和5年度に向けた課題・今後の方針

全国体力・運動能力テストの結果を分析し、課題がある種目について、体力向上に実績がある学校の取組を紹介し、さらなる向上を目指して取り組ませる必要がある。



全国体力・運動能力テストの結果を各校で分析し、課題がある種目(栗原市においては特に持久力)について改善していけるよう、体力向上に実績がある学校の取組を積極的に紹介する。

5 学識経験者の意見

今後積極的に体を動かせる機会が増えてきますが、その中でどのような体力・運動能力に着目して、取り組みを行えば良いのか、個人と集団(学校)単位で検討することになります。既に様々な取り組みが実施されていますが、適宜見直しをして、子ども達の興味・関心をもつ内容が期待されます。

施策体系	基本方針	一人一人の可能性を引き出し、生きる力を育む学校づくり	基本目標	安全・安心な学校教育の推進																		
	具体的施策	自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進		担当課 学校教育課																		
1 目的																						
自らの命を守るための防災教育を推進し、安全・安心な学校を目指し、幼児・児童生徒の安全確保と学校の安全管理に万全を期する。																						
2 具体的事業																						
施策を構成する事業			目標指標																			
9 地域と連携した防災訓練等の実施			学校と地域の防災に関する意見交換を行う機会の設定																			
事業概要及び目標			現状値(令和3年度) 88.9% (24/27校) 目標値(令和4年度) 100.0% 実績値(令和4年度) 92.6% (25/27校) 達成率(令和4年度) 92.6%																			
地域と連携した防災訓練の必要性について、幼稚園・学校に働きかけ、自分の命は自分で守る教育を推進する。また、幼稚園・学校における危機管理意識を向上し、幼児・児童生徒の命を守るための防災体制づくりを支援するため、防災マニュアルの改善を働きかける。																						
3 令和4年度の取組と自己評価																						
取組と成果																						
防災に関する意見交換の場として、多くの小中学校や幼稚園でP T A役員会等の場で行っている。前年度から引き続き新型コロナウイルス感染症感染対策のため、集合開催を見合わせた学校があり、実施できなかった学校もある。																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>実施校(園)数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園</td> <td>9 / 9 園</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>9 / 11 校</td> <td>81.8%</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>6 / 6 校</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>義務教育学校</td> <td>1 / 1 校</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>25 / 27 校(園)</td> <td>92.6%</td> </tr> </tbody> </table>						実施校(園)数	割合	幼稚園	9 / 9 園	100%	小学校	9 / 11 校	81.8%	中学校	6 / 6 校	100%	義務教育学校	1 / 1 校	100%	計	25 / 27 校(園)	92.6%
	実施校(園)数	割合																				
幼稚園	9 / 9 園	100%																				
小学校	9 / 11 校	81.8%																				
中学校	6 / 6 校	100%																				
義務教育学校	1 / 1 校	100%																				
計	25 / 27 校(園)	92.6%																				
評 価																						
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)																					
	B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)																					
	C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)																					
	D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)																					
4 令和5年度に向けた課題・今後の方針																						
新型コロナウイルス感染症等の感染対策に配慮しながら、地域と連携した防災訓練を実施する必要がある。			➡	学校と地域の防災訓練に関する意見交換を実施し、地域と連携した効果的な防災訓練の実施検討を行う。																		
5 学識経験者の意見																						
非常に高い達成率でした。今後は集合開催することもできるようになるので、達成率が100%になることが期待されます。また、防災訓練の具体的な内容が示されていませんでしたが、昨今様々な形での自然災害が発生しています。それらに対する取り組みについても、検討する必要があると考えられました。																						

施策体系	基本方針	共に助け合い、思いやりに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興	
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供		担当課 社会教育課	
1 目的					
<p>青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。</p>					
2 具体的事業					
施策を構成する事業			目標指標		
10 ジュニア・リーダー育成事業・派遣事業			ジュニア・リーダーに関する事業開催数		
事業概要及び目標			<p>現状値（令和3年度） 4事業 目標値（令和4年度） 7事業 実績値（令和4年度） 4事業 ※ 新型コロナウイルス感染症感染対策のため 3事業を中止 達成率 57.1%</p>		
ジュニア・リーダーとして必要な知識や技術を習得するため、研修会への参加を促し、ジュニア・リーダーの育成に努める。また、地域で開催される子ども会活動、社会教育事業等にジュニア・リーダーの積極的な参画を促し、ジュニア・リーダー活動の活性化を図る。					
3 令和4年度の取組と自己評価					
取組と成果					
<p>ジュニア・リーダー（J・L）の継続的な育成と活動の活性化を図るため、児童を対象とした事業を計画していたが、新型コロナウイルス感染症感染対策の影響により3事業が中止となった。</p> <p>「ジュニア・リーダーと遊ぼう」では、ジュニア・リーダーが企画・運営した事業で、学び、創作活動などを通して小学生と交流し、ジュニア・リーダーとしての実践経験の場を設けるとともに、減少傾向にあるジュニア・リーダーの活動周知に繋げることができた。</p>					
ジュニア・リーダー関連事業（4事業）					
事業名		開催日	参加人数	うちJ・L	
栗原市ジュニア・リーダー技術研修会		7 / 24	7人	7人	
ジュニア・リーダー初級研修会		11 / 5～6	11人	7人	
せみね・たかしみず ふれあいクリスマスパーティー		12 / 11	56人	11人	
ジュニア・リーダーと遊ぼう		3 / 26	19人	12人	
合計			93人	37人	
(中止した事業 3事業)					
くりこまハロウィンパーティー、築館ジュニアリーダー人形劇まつり、かななりクリスマス子ども祭り					
ジュニア・リーダー数 令和4年度 25人(内新規加入5人) 令和3年度 27人					
評価					
C	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)				
	B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)				
	C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)				
	D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)				
4 令和5年度に向けた課題・今後の方針					
<p>ジュニア・リーダーの新規加入者は5人であったが、登録人数は令和3年度と比較して2人の減となり、減少傾向にある。令和5年度においても、ジュニア・リーダー活動の周知と募集活動が必要である。</p>			<p>青少年育成団体と協力してジュニア・リーダーが活動できる事業を実施し、ジュニア・リーダー活動を紹介するとともに、ジュニア・リーダーの新規加入につながる啓発活動を行う。</p>		
5 学識経験者の意見					
<p>前年度同様に、ジュニアリーダー登録人数が増えていない点は、非常に危惧される点でした。ジュニア・リーダーが何をしているのか、また何を目的に活動しているのかを明確にする必要があると思われます。少子化に加え、各個人の考え方なども多様性を持つようになってきていることも踏まえ、ジュニア・リーダーの意義について再考、検討した方が良いと考えられます。</p>					

施策体系	基本方針	共に助け合い、思いやりに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興	
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供		担当課 社会教育課	

1 目的

青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標
11 少年体験教室事業、合宿通学、児童・生徒新春書初め会、子ども陶芸教室等	事業参加者の満足度
事業概要及び目標	現状値（令和3年度） 92.5% 目標値（令和4年度） 95.0% 実績値（令和4年度） 100.0% 達成率 105.3%
青少年教育の推進を図るため、自然体験など体験活動及び交流事業の実施や、青少年育成団体との共催による事業を実施する。	

3 令和4年度の取組と自己評価

取組と成果

この事業は、様々な遊びや体験活動、人との関わりを通して豊かな心を育むことを目的として実施しており、新型コロナウイルス感染症感染対策を講じながら実施することができた。あきる野市・栗原市友好親善交流事業では、オンラインによる交流を実施し、お互いの中学校の生徒会による発表を行い、参加者から「楽しかった」、「大変良かった」などの感想を得ることができた。

事業実施状況

事業名	期日・期間	対象	参加人数
あきる野市・栗原市友好親善交流事業（オンライン交流）	11/28	中学生	6人
親子消しゴムはんこ講座	11/27・12/11	栗駒・鶯沢地区小学生・保護者	23人
子ども陶芸教室	7月～9月	栗駒・鶯沢地区小学生・保護者	32人
神楽教室	4月～2月	市内一般・子ども	197人
一迫・花山管内児童・生徒新春書初め会	1/6	一迫・花山地区小・中学生	14人
おはなし会	毎週土曜日	幼児、小学生	423人
七夕おはなし会	7/2	幼児、小中学生	23人
子どもの本展示会（市立図書館）	7/23～7/31	幼児、学齢児童	47人
子どもの本展示会（金成生涯学習センター）	10/15～10/22	幼児、小中学生、一般	305人
子どもの本移動展示会	10/1～10/8	幼児、小中学生	35人
夏休み子ども映画会	8/10	幼児、児童、一般	5人
ブックラリー	9月～3月	幼児、小中学生、高校生	165人
手づくり絵本教室	12/4	幼児、小中学生、一般	8人
冬のあったかおはなし会	12/17	幼児、小中学生	22人
計			1,305人

（中止）

少年体験教室事業「まなびっ子」、くりはらっこ わんぱく塾

評価

A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和5年度に向けた課題・今後の方針

新型コロナウイルス感染症感染対策に係る制限が解除されることに伴い、コロナ禍前の状態の事業開催に向け、事業の充実を図る。



参加者の満足度の高い事業を実施するため、各種団体と連携し、多様な体験や遊びの場を提供できるよう努める。

5 学識経験者の意見

オンライン交流を始め、様々な事業が実施され、施策にある「学習機会の提供」が十分になされた結果、達成率も目標以上となっていました。新型コロナウイルス感染症による制限が変わることから、今後さらなる事業の展開、また参加者数の増大が見込まれ、引き続き、期待される事業と理解しています。

施策体系	基本方針	共に助け合い、思いやりに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供		担当課 社会教育課

1 目的

市民それぞれが、生涯にわたって学習を継続するにあたり、生きていくライフステージによって、求められる学習内容や手法は変わってくるため、それぞれに応じた学習機会の提供と充実を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標
12 市民セミナー（陶芸教室、園芸教室、手芸講座、女性講座、高齢者講座等）	事業参加者の満足度
事業概要及び目標	現状値（令和3年度） 87.7% 目標値（令和4年度） 95.0% 実績値（令和4年度） 85.7% 達成率 90.2%
地域住民の多様化する学習ニーズに対応し、ライフステージに合わせた生涯学習の場を提供するとともに、参加の状況に合わせてサークル活動に移行できるように支援する。また、高齢者の豊かな知識と経験を生かすため、積極的に高齢者の社会参加を進める。	

3 令和4年度の取組と自己評価

取組と成果

市民セミナーは、各教育センターで行うライフステージに合わせた事業である。新型コロナウイルス感染症感染対策のため、初めてオンラインによる講座を開催したものの、参加者からは、「実際の講座がよい」、「画面が見えづらかった」、「映像になれていない」等の感想があげられた。また、昨年度に引き続きスマホ教室を開催したところ、「今後も開催して欲しい」、「親切に、教えて頂きました」と好評ではあったが、「内容が初歩的過ぎる」、「他の項目も開催して欲しい」等、個々のレベルに合わせたスマホ教室を希望する意見もあり、全体での満足度は目標値を達成することができなかった。

事業の種類	事業名	参加延べ人数
シニアセミナー（60歳以上）	アクティブカレッジ、志波姫松葉大学、瀬峰・清水水リフレッシュカレッジ、寿康大学	259人
市民セミナー	料理教室、スマホ教室、園芸講座、手芸講座、そうぞく講座（オンライン講座）	338人
合計		597人

評価

B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和5年度に向けた課題・今後の方針

各種講座、教室の開催にあたり、参加者のニーズが多様化しており、満足度が低下している部分がある。



参加者からのアンケート調査の結果に基づき、ニーズに合わせた各種講座、教室を開催し、新規参加者の増加に努める。

5 学識経験者の意見

これまでの事業にも継続して参加している方が多いものと推察されます。結果として、ニーズの多様化につながっているのかもしれませんが、レベルの違いについても指摘されていますが、習熟度別にすると参加者および講師のばらつきが生まれ、難しい問題を含んでいると思われます。調査結果に基づき、事業内容を検討する必要があります。

施策体系	基本方針	共に助け合い、思いやりに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実		担当課 社会教育課

1 目的

地域、学校、家庭の連携・協働により「地域の子どもたちを地域で育てる」仕組みづくりを推進し、地域と家庭の教育力向上と活性化を図る。また、子どもたちを育む仕組みづくりを通して、子どもたちの学びを充実させるとともに、地域住民のネットワークを強めることで市民の生涯学習の成果の活用を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

13 協働教育推進事業

協働教育各種推進事業への参加人数

事業概要及び目標

地域住民がボランティアとして子どもたちの学習及び体験活動等を支援する学校支援活動や地域活動などを実施し、家庭・地域・学校が連携、協働して「地域の子どもを地域で育てる」環境づくりを推進する。また、2年目となる「くりはら未来塾」の更なる充実を目指す。

現状値（令和3年度）	2,729人
目標値（令和4年度）	3,000人
実績値（令和4年度）	2,869人
達成率	95.6%

3 令和4年度の取組と自己評価

取組と成果

協働教育の意義と重要性の理解を深め、家庭・地域・学校が協働する仕組みづくりを推進するため、協働教育推進事業を実施した。放課後子ども教室には、31人の申し込みがあり、参加した児童から、「妹たちとも遊べてとてもおもしろかった」、「楽しかった」との感想を得ている。また、実施2年目となる「くりはら未来塾」については、新型コロナウイルス感染症感染対策の影響により夏休み学習会の参加者が117人と昨年よりも減少した。

協働教育事業実施状況

事業名	期日	対象	事業内容	参加延べ人数
家庭教育学級	随時	栗駒幼(52)、高清水小(44)、花山幼(9)、築館小(149)、花山小(10)、築館中(429)、鶯沢小(12)	家庭教育、食育 など	705人
家庭教育サポーター学習会	5/30	家庭教育支援チーム員、くりはら未来塾学び支援員ほか	講話・演習、体験活動	11人
くりはら未来塾 (放課後学習会)	通年	築館小、宮野小、若柳小、一迫小、瀬峰小、鶯沢小、金成小中、志波姫小、花山小(9校)	放課後において学び支援員を派遣し、学習支援を行う	117人
くりはら未来塾 (夏休み学習会)	通年	市内小学校及び義務教育学校に在籍する3年生～6年生の児童(97) 市内中学校3年生及び義務教育学校9年生に在籍する生徒(20)	長期休業中の学習会の実施 学び支援員として県内の大学生に依頼	
学校支援活動 (推進指定校)	通年	栗駒小(82)、鶯沢小(59)、築館中(70)、栗原南中(288)	裁縫、白鷺太鼓指導、着付け教室、職場体験、町探検見守り、花壇整備 など	499人
学校支援活動 (推進指定校以外)	通年	築館小(150)、宮野小(125)、栗駒南小(284)、高清水小(88)、一迫小(8)、瀬峰小(13)、志波姫小(78)、花山小(136)、若柳中(45)、栗駒中(18)、栗原西中(228)、金成小中(34)	農業体験、環境美化作業、読み聞かせ、自然観察、水難防止教室、交通安全教室、部活動指導、ふるさと学習、着付け教室 など	1,207人
放課後子ども教室	通年	瀬峰小学校、家庭教育支援チーム員、くりはら未来塾学び支援員ほか	ソーマトロップづくり、牛乳パックこまづくり、ビー玉コロコロづくり など	206人
北部管内協働教育地域指導者研修会	10/17	栗原市家庭教育支援チーム、放課後児童クラブ支援員	講話・演習	6人
北部管内協働教育研修会	11/22	小・中・義務教育学校地域連携担当等教職員、生涯学習担当者	事例発表、講話など	7人
地域活動	随時	瀬峰・高清水地区、一迫・花山地区	ふれあいクリスマス会、新春書初大会	86人
協働教育推進委員会	7/29 3/14	協働教育推進委員	協働教育事業計画協議	25人
合 計				2,869人

評 価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
- B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
- C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
- D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

4 令和5年度に向けた課題・今後の方針

引き続き「くりはら未来塾」の円滑な実施を図る必要がある。また、地域と学校及び教育委員会をつなぐ推進体制（地域学校協働本部）の整備を図る必要がある。



くりはら未来塾（放課後学習会・夏休み学習会）への参加を呼びかけ、学習内容も含め更なる充実を図る。地域と学校及び教育委員会をつなぐ推進体制（地域学校協働本部）の整備に向けて協議する。

5 学識経験者の意見

ボランティア活動の一環ともなっている事業であり、地域住民同士を繋ぐことにも貢献している事業と考えられます。このような事業は、ソーシャルキャピタルの観点からも重要です。これらの活動が活発であることは、子どもの教育成果の向上や地域経済への発展の可能性も秘められていることから、意識的に取り組むことが期待されます。

施策体系	基本方針	共に助け合い、思いやりに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実		担当課 社会教育課

1 目的

図書館活動を通じて市民の生活に役立つような文化・教養の向上に努め、多くの市民の読書活動を推進する。そのため、図書等貸し出し環境の整備や各種事業やサービスの提供を行う。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標
14 栗原市立図書館及び公民館図書室の読書活動推進（図書館まつり、ブックラリー、子どもの絵本展示会）	市民一人あたりの図書貸出数
事業概要及び目標	現状値（令和3年度） 3.2冊 目標値（令和4年度） 3.3冊 実績値（令和4年度） 3.1冊 達成率 93.9%
<p>市立図書館と市内9カ所の公民館図書室等とのネットワークシステムによる図書の相互貸借をはじめ、移動図書館車の効率的な運行や乳幼児への絵本無償提供などの事業を展開し、市民の読書環境の充実を図る。</p> <p>また、広報くりはらや市ウェブサイトによる情報発信の継続、さらにはSNSを有効活用して市立図書館及び公民館図書室の利用を促し、読書活動を推進する。</p>	

3 令和4年度の取組と自己評価

取組と成果

市立図書館の運営にあたっては、長引く新型コロナウイルス感染症感染対策として継続実施してきた施設内の閲覧席の制限や貸出冊数の緩和などを段階的に解除しながら通常期の状態へ戻すとともに、新たに図書資料等の除菌機を導入し衛生対策の強化を図りながら、読書活動の推進に取り組んだ。

年間を通して定例的に実施している幼児や児童を対象としたおはなし会について、読み聞かせボランティアとの協働実施により、幼児や児童、その保護者等の家庭読書における読書活動を推進したほか、読み聞かせボランティア育成の観点から発表機会の提供を行うなどの取組が奏功し、令和4年度において「子供の読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受けた。

年度	総貸出冊数	（総貸出冊数のうち公民館図書室貸出冊数）	総人口（年度末）	市民一人あたりの図書貸出数
平成30年度	211,644冊	62,789冊	67,829人	3.1冊
令和元年度	204,441冊	59,609冊	66,618人	3.1冊
令和2年度	197,707冊	51,510冊	65,419人	3.0冊
令和3年度	204,386冊	56,982冊	64,102人	3.2冊
令和4年度	193,568冊	61,270冊	62,672人	3.1冊

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和5年度に向けた課題・今後の方針

情報化社会へと進展する中で懸念される読書離れに対し、読書活動推進拠点としての図書館の取組をより実効性のあるものとして発展・継続する必要がある。



現在実施している各種事業の拡充はもとより、栗原市子供読書活動推進計画の目標達成に向けた取組拠点の一つとして、幼児や児童に重点を置いた読書活動推進につながる施策や事業に積極的に取り組む。

5 学識経験者の意見

コロナウイルス感染症対策による制限が、徐々に変わってきていることを踏まえた取り組みを確認することができました。ボランティアとの協働実施による読書活動を推進した結果、表彰を受けたことは評価される内容と考えられました。事業内容は十分なものであることから、利用状況の向上を目指した取り組みの工夫が必要と解されました。

施策体系	基本方針	共に助け合い、思いやりに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興	
	具体的施策	国際理解のための学習や事業の推進		担当課 社会教育課	
1 目的					
国際社会の中で、日本人としての自覚を持ち、広い視野を持って異文化を理解し、異なる習慣や文化を持った人々と共に生きていくための資質や能力を持った人材を育成する。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業			目標指標		
15 青空大使派遣事業			事業方針の策定		
事業概要及び目標			目標値（令和4年度） 100.0% 実績値（令和4年度） - %		
市内在住の中学2年生をオーストラリアに派遣し、グレートバリアリーフなどの大自然に触れ、ホームステイや現地校との交流により異文化理解の重要性を知る機会とし、将来を担う国際的視野を持った人材を育成する。 令和2年度から令和4年度まで派遣事業を中止したが、令和5年度の事業実施に向け、方針を策定する。					
3 令和4年度の取組と自己評価					
取組と成果					
令和2年度から令和4年度まで青空大使派遣事業については、新型コロナウイルス感染症感染対策により中止としていたため、令和5年度の事業実施に向けて、海外の新型コロナウイルス感染症感染対策を調査してきた。結果、令和5年度についても、事業実施スケジュールや重症化リスク等を考え実施を見送ることとし、引き続き新型コロナウイルス感染症をはじめとする流行病に注視しながら、令和6年度の実施に向けて検討していくこととした。					
評 価					
—		A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）			
4 令和5年度に向けた課題・今後の方針					
令和6年度に事業再開とした場合、渡航先等の検討から準備し、募集及び派遣人数の確定など、事業推進の再構築が必要となる。			➡	「青空大使派遣」の事業再開、または「南投市の国際交流」の包含も含め、協議する。	
また、国際交流の観点から、南投市との包含も含め、検討する必要がある。					
5 学識経験者の意見					
昨年度同様、派遣事業をコロナ禍の影響で残念ながら実施することができなかったことが報告されていました。大変残念な結果となりましたが、今後、海外渡航ができるようになることから、単に派遣するだけでなく、どのような観点から本事業を実施するのか、改めて確認した上で、今後実施する必要があります。					

施策体系	基本方針	地域の特性を生かした文化芸術活動の推進	基本目標	地域に根ざした文化芸術の振興
	具体的施策	文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進		担当課 社会教育課

1 目的

市民が行う文化芸術活動の支援に努め、地域に根ざした文化芸術の推進を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標
16 栗原みてけらいん美術展ほか各種展覧会、各種芸術鑑賞会	芸術鑑賞会等参加人数
事業概要及び目標	現状値（令和3年度） 6,417人 目標値（令和4年度） 6,500人 実績値（令和4年度） 6,451人 達成率 99.2%
優れた芸術に触れる機会を提供し、市民の文化的資質の向上を図るため芸術鑑賞会、音楽会などを開催する。また、市民の創作意欲の喚起と豊かな情操を養うため、市内外の絵画や書道などの作品展を開催する。	

3 令和4年度の取組と自己評価

取組と成果

令和4年3月の地震により、栗原文化会館が被災し、災害復旧工事のため令和5年3月の工事完了までホールが使用できない状況にあった。そのため、栗原文化会館ホールで実施予定であった事業については、若柳総合文化センター大ホールで実施した。また、新型コロナウイルス感染症感染対策に係る座席数等の制限も緩和された際には、事業実施に多くの観客が来場した。

社会教育課実施事業	開催日	参加人数	前年度人数
小学校芸術鑑賞会（巡回公演）	6/13～22 （全10公演）	1,009人	3,381人
仙台フィルハーモニー管弦楽団コンサートinくりはら	9/11	337人	—
大山日出男セクステットジャズコンサート2021inくりはら	—	—	397人
心にきざむ 文化講演会	10/15	375人	中止
みやぎミュージックフェスタ2022inくりはら	3/12	763人	—
栗原文化会館実施事業	開催日	参加人数	前年度人数
栗原みてけらいん美術展	6/10～19	456人	552人
宮城水彩展「栗原展」	5/27～6/5	332人	383人
栗原市工芸展	8/2～7	504人	268人
栗原市美術展	11/8～13	682人	551人
栗原市写真展	2/25～3/5	560人	449人
若柳総合文化センター実施事業	開催日	参加人数	前年度人数
ダンスフェスティバル	8/28	447人	301人
劇団四季ファミリーミュージカル「人間になりたがった猫」	10/16	484人	—
春の祭典～舞踊と民謡 流派の集い～<隔年実施>	3/5	502人	113人
合計		6,451人	

（中止した事業）


ジャズコロボくりはら（代替事業ジャズコンサート）、けやきステージ、河北美術展、栗原書道展、自主公演、ファミリーミュージカル、わかやなぎ音楽祭

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和5年度に向けた課題・今後の方針

新型コロナウイルス感染症が拡大する以前のように事業を実施する必要がある。引き続き感染対策を行う必要がある。  引き続き新型コロナウイルス感染症感染対策を徹底した上で、市民のニーズに応える事業の実施に努める。

5 学識経験者の意見

地震によって文化会館が使用出来ない中、会場調整などをしてできるかぎり事業を展開されたことは非常に評価される点であると考えられました。令和5年度にはホールの工事も完了し、新型コロナウイルス感染症の状況も変わってきていることから、達成率の向上が期待されます。※なお、今後の方針については、感染症対策だけに言及するだけでなく、その他の面も考慮した目標設定が必要です。

施策体系	基本方針	地域の特性を生かした文化芸術活動の推進	基本目標	文化財の保存と活用の推進		
	具体的施策	文化財の保存・活用と継承活動の推進			担当課 文化財保護課	
1 目的						
先人が残したかけがえのない文化財を永く後世に保存・伝承していくとともに、これを活用して文化の創造に役立てていくことは、現代のわれわれに課された重大な責務です。特に、市内に伝わる伝統文化財の継承を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。						
2 具体的事業						
施策を構成する事業			目標指標			
17 文化財標柱等整備事業			文化財標柱等更新数			
事業概要及び目標			現状値（令和3年度） 5基 目標値（令和4年度） 7基 実績値（令和4年度） 18基 達成率 257.1%			
指定文化財及び埋蔵文化財包蔵地（遺跡）に設置している文化財標柱等の更新を行い、市内の文化財について、広く理解と周知を図る。 また、埋蔵文化財包蔵地に設置することにより、無断開発を防止するための周知徹底を図る。						
3 令和4年度の取組と自己評価						
取組と成果						
文化財の保護啓発、周知のために市内に設置している指定文化財及び埋蔵文化財包蔵地の木製及び金属製の文化財標柱の中から経年劣化等により損傷が激しく、記載内容等が確認できないもの及び表記の修正が必要なもの14基を選定し、委託業務及び直営で改修を行った。また、開発が進んでいる地区に委託により4基を新規設置した。 改修：金成地区14基 新規設置：築館地区1基、若柳地区1基、栗駒地区1基、志波姫地区1基						
	標柱・説明板設置調査数	現状設置数	更新(新設)・改修等必要件数			改修等不要件数
			更新(新設)	改修等	計	
築館	81	82	46	11	57	25
若柳	79	80	21	6	27	53
栗駒	174	175	37	38	75	100
高清水	107	107	22	8	30	77
一迫	240	240	5	49	54	186
瀬峰	136	136	57	5	62	74
鶯沢	23	23	0	3	3	20
金成	105	105	19	0	19	86
志波姫	69	70	4	11	15	55
花山	104	104	17	24	41	63
総数	1,118	1,122	228	155	383	739
評価						
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）					
4 令和5年度に向けた課題・今後の方針						
劣化が激しい標柱について、優先的に行う方針としているが、埋蔵文化財包蔵地への開発に対する対応として、未設置箇所への新規設置の必要性が高くなっている。			➡	経年劣化の激しいものを優先的に改修する一方で、新規に設置する必要性が高い箇所については弾力的に対応していく。		
5 学識経験者の意見						
文化財標柱の更新が非常に進み目標の達成率が250%を越えている点は良かった点であると考えられました。その一方で更新等の必要な件数に対しての更新数の観点からみると必ずしも十分ではないことから、早めの対応が必要となっています。予算面等との調整が必要とはなりますが、優先順位を整理した上での対応が求められると考えられました。						

施策体系	基本方針	地域の特性を生かした文化芸術活動の推進	基本目標	文化財の保存と活用の推進
	具体的施策	文化財の保存・活用と継承活動の推進		担当課 文化財保護課
1 目的				
先人が残したかけがえのない文化財を永く後世に保存・伝承していくとともに、これを活用して文化の創造に役立てていくことは、現代のわれわれに課された重大な責務です。特に、市内に伝わる伝統文化財の継承を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業		目標指標		
18 文化財普及啓発活動事業		普及啓発活動回数		
事業概要及び目標		現状値 (令和3年度)	目標値 (令和4年度)	実績値 (令和4年度)
市内の文化財や発掘調査の成果に関して、広報、パネルによる紹介、企画展を行い、栗原市の歴史と文化財の価値を伝える。		広報記事の掲載 12回	12回	12回
		文化財紹介パネルの作成・掲示 2回	2回	1回
		企画展の開催 1回	1回	1回
		達成率		93.3%
3 令和4年度の取組と自己評価				
取組と成果				
市内の文化財について広く伝えるため、「広報くりはら」において、文化財を紹介した記事を毎月掲載した。また、栗原の民具を紹介したパネルを作成し、栗原市役所金成庁舎に掲示した。一迫埋蔵文化財センターにおいて、栗原市が所蔵する県指定及び市指定有形文化財の展示を行った。				
実施事項	実施内容		備考	
広報くりはらへの記事掲載	花山鉄砲祭りほか計12件の文化財及び生活習俗等に関する紹介		「市内の文化財散策」として掲載（毎月）	
文化財紹介パネルの作成・掲示	くりはらの民具の紹介パネル掲示		栗原市役所金成庁舎に掲示	
企画展 栗原市所蔵指定文化財展	栗原市所蔵の指定文化財の展示 展示資料：宮城県指定有形文化財 銅製「極楽寺印」 髷「機」伊治城跡出土 ほか40点		場所：一迫埋蔵文化財センター 会期：8/2～8/28 開催日数：22日間 入館者数：55人(小中高7人、大人48人)	
評 価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）			
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）			
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）			
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）			
4 令和5年度に向けた課題・今後の方針				
児童生徒が観覧しやすいよう、夏休み期間に企画展を実施したが、児童生徒の観覧者数が伸びなかった。		➡	事前の周知方法や、児童生徒が興味を持つような展示品や説明方法などを工夫する。	
5 学識経験者の意見				
子ども達へのアプローチをどのように働きかけるのか、検討することの重要性が示唆されます。広報記事の掲載のみならず、学校などへの声かけや授業への活用なども含めた取り組みが必要と思われます。また、栗原市の文化財が広範囲にわたることから、市全体として、何をアピールするのが鍵になると考えられます。				

施策体系	基本方針	楽しさと活力ある生涯スポーツの推進	基本目標	健康の保持増進とスポーツの推進																																																														
	具体的施策	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実		担当課 社会教育課																																																														
1 目的																																																																		
<p>スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上をめざし、「楽・楽・楽スポーツ」（注1）をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。 （注1）楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。</p>																																																																		
2 具体的事業																																																																		
施策を構成する事業		目標指標																																																																
19 栗原市小学校陸上競技大会ほか各種大会（高校陸上大会、栗原ハーフマラソン大会、体力・運動能力調査ほか）		各種大会（市主催）の参加人数																																																																
事業概要及び目標		現状値（令和3年度） 1,805人 目標値（令和4年度） 2,600人 実績値（令和4年度） 2,527人 達成率 97.2%																																																																
市民の健康増進及び体力・競技力向上を図るため、各種団体及び関係機関と連携しスポーツ大会等を開催する。 また、市民と地域、各種団体、行政が互いに連携・協力することで、スポーツを支える楽しさの推進を図る。																																																																		
3 令和4年度の取組と自己評価																																																																		
取組と成果																																																																		
新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中ではあったが、令和4年度は参加者等の理解や協力により、感染対策をとりながら事業を実施し、スポーツの振興と参加者間の交流を図ることができた。																																																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事業名</th> <th rowspan="2">開催日</th> <th colspan="2">参加人数</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>令和4年</th> <th>令和3年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>栗原市長旗争奪第21回東北中学校卓球大会</td> <td>5/21~22</td> <td>中止</td> <td>中止</td> <td>福島県沖地震に伴う施設被害による中止</td> </tr> <tr> <td>第18回栗原市小学校陸上競技大会</td> <td>5/29</td> <td>190人</td> <td>222人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第30回くりこま高原高等学校陸上競技選手権大会</td> <td>7/16~17</td> <td>中止</td> <td>986人</td> <td>大雨（土砂災害）警報による中止</td> </tr> <tr> <td>第9回山崎武司杯東北中学野球選抜交流大会</td> <td>8/2~3</td> <td>107人</td> <td>162人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウルフドックス名古屋バレーボール教室</td> <td>8/7</td> <td>62人</td> <td>中止</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第52回全日本中学生ホッケー選手権大会</td> <td>8/19~22</td> <td>675人</td> <td></td> <td>R4市誘致事業</td> </tr> <tr> <td>体力・運動能力調査</td> <td>10/30</td> <td>17人</td> <td>中止</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回山崎武司杯少年野球選抜大会</td> <td>11/3</td> <td>201人</td> <td>204人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回栗原ハーフマラソン大会</td> <td>11/13</td> <td>991人</td> <td>中止</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ホッケー競技普及事業</td> <td>6月~2月</td> <td>284人</td> <td>231人</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td>2,527人</td> <td>1,805人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					事業名	開催日	参加人数		備考	令和4年	令和3年	栗原市長旗争奪第21回東北中学校卓球大会	5/21~22	中止	中止	福島県沖地震に伴う施設被害による中止	第18回栗原市小学校陸上競技大会	5/29	190人	222人		第30回くりこま高原高等学校陸上競技選手権大会	7/16~17	中止	986人	大雨（土砂災害）警報による中止	第9回山崎武司杯東北中学野球選抜交流大会	8/2~3	107人	162人		ウルフドックス名古屋バレーボール教室	8/7	62人	中止		第52回全日本中学生ホッケー選手権大会	8/19~22	675人		R4市誘致事業	体力・運動能力調査	10/30	17人	中止		第14回山崎武司杯少年野球選抜大会	11/3	201人	204人		第8回栗原ハーフマラソン大会	11/13	991人	中止		ホッケー競技普及事業	6月~2月	284人	231人		合計		2,527人	1,805人	
事業名	開催日	参加人数		備考																																																														
		令和4年	令和3年																																																															
栗原市長旗争奪第21回東北中学校卓球大会	5/21~22	中止	中止	福島県沖地震に伴う施設被害による中止																																																														
第18回栗原市小学校陸上競技大会	5/29	190人	222人																																																															
第30回くりこま高原高等学校陸上競技選手権大会	7/16~17	中止	986人	大雨（土砂災害）警報による中止																																																														
第9回山崎武司杯東北中学野球選抜交流大会	8/2~3	107人	162人																																																															
ウルフドックス名古屋バレーボール教室	8/7	62人	中止																																																															
第52回全日本中学生ホッケー選手権大会	8/19~22	675人		R4市誘致事業																																																														
体力・運動能力調査	10/30	17人	中止																																																															
第14回山崎武司杯少年野球選抜大会	11/3	201人	204人																																																															
第8回栗原ハーフマラソン大会	11/13	991人	中止																																																															
ホッケー競技普及事業	6月~2月	284人	231人																																																															
合計		2,527人	1,805人																																																															
評価																																																																		
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）																																																																	
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）																																																																	
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）																																																																	
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																																																	
4 令和5年度に向けた課題・今後の方針																																																																		
健康増進・体力向上のため、市民が生涯を通じてスポーツに親しむことができる機会を提供することが、必要である。		 子どもから高齢者まで、多くの市民が気軽に楽しくスポーツ活動に取り組めるよう、競技団体等と連携・協力し、スポーツ活動の一層の推進を図る。																																																																
5 学識経験者の意見																																																																		
自然災害により一部事業が中止になったことは残念でしたが、全中ホッケー選手権大会を誘致できたことは事業運営を再考する機会にもなったものと考えられます。新型コロナウイルス感染症対策も今後変化していく中で様々な事業を展開することができると考えられ、スポーツ活動の推進が期待されます。																																																																		

3 学識経験者の意見

○ 宮城教育大学大学院教育学研究科 教授 黒川 修行 氏

4回目の担当となり、栗原市におけるこれまでの様々な取り組みを振り返りつつ、事業内容について確認をいたしました。各事業に携わる皆様の取組状況がしっかりと伝わる報告となっております。

今回の点検及び評価の結果報告書を確認している中で感じたのは、新型コロナウイルス感染症による影響が以前に比べて、やや小さくなってきた点です。感染症対策がやや緩和されてきたこと、また、対策がこれまでの経験からやりやすくなってきたことによるものだろうと解されました。このことは栗原市における事業展開において、良かった点と理解しております。十分な情報共有がなされることで、感染対策も適切に行われたものと考えられました。

例年、事業に対する目標達成率が示されております。数字として示すことも大切ですが、質的な評価の必要性が改めて感じられました。今回の事業に関連する領域は、教育に関わる分野であり、数値目標だけでは、どうしても目標値の設定に根拠を持たせることが難しい領域であり、数字では評価するのが難しいことも多々ございます。今後、評価指標についても再考することで、より明確な評価ができるようになることが期待されます。

感染症法における新型コロナウイルス感染症の類型が変わりました。このことに伴い、事業の運営方法等も変化するものと考えられます。コロナ禍における対応とは異なり、事業に関連する方達も対応方法が変わってくると思われれます。その中で、事業それ自体が栗原市にとって、どのような意味を持っているのか、これまでの事業結果を振り返りながら、検討する必要があります。実現可能性を含めて、栗原市の様々な部署が連携し、協働しながら、各事業を運営することを期待しております。

4 栗原市教育委員会の今後の方向性

宮城教育大学の先生からいただいた御意見を参考に、今後、次のとおり実施してまいります。

(1) 学府くりはらの学校教育（事業 NO. 1～9）

- ・ 学力の向上につきましては、6年間の学力向上対策プロジェクト事業で秋田の大仙市教育派遣から学んだことを生かした実践に加え、幼稚園と小学校の教員が互いの保育及び授業について学び合いを生かした実践を行い、幼稚園、小学校、中学校の指導のつながりと日々の指導の質の向上を図ります。
- ・ いじめを許さない学校づくりの推進につきましては、命を大切にし、自己肯定感を高める授業づくりの工夫を図るとともに、WEBQU調査を活用し、その未然防止や早期発見に努めます。また、登校できない、または学級に入れない児童生徒につきましては、「栗原市学校教育支援室」の活用を図り、学びの保障を図ります。
- ・ 健康と体力の向上につきましては、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、今後、子どもたちが積極的に体を動かす機会が増えてくることが考えられます。全国体力・運動能力調査の課題である持久力や走力を高めるよう体育の授業等での運動量の確保を図ります。また、子どもたちが生活リズムを整え、メリハリのある生活を送ることができるよう働き掛けます。

(2) 学府くりはらの社会教育（事業 NO. 10～19）

- ・ 生涯学習の推進につきましては、各種講座等の事業を実施するとともに、オンラインによる講座も開催し、多くの方々が参加できる環境づくりを行います。また、登録人数が減少しているジュニア・リーダーを育成するため、青少年団体と協力した各種事業の実施や新規加入につながる啓発活動に取り組みます。
- ・ 協働教育の推進につきましては、「地域の子どもの地域で育てる」環境づくりに必要な、地域、学校、家庭及び関係機関との連携強化のため、推進体制の整備に向けて協議を進めます。
- ・ 文化芸術の振興につきましては、市民のニーズを把握し、参加者に満足していただける魅力的な事業を企画するとともに、多くの市民に参加いただけるよう広報等を改善するなど事業の活性化を行います。
- ・ 文化財の保存と活用の推進につきましては、文化財等の存在や内容を広く認識いただくため、現地の標柱及び説明板の整備を、無断開発の抑止効果や損傷の度合いなどを考慮しながら、優先順位を整理して実施します。また、文化財普及啓発活動では、子どもたちにも市内の文化財に親しんでもらうため、学校へのポスター配布や小中学校の長期休暇期間での展示の実施など、積極的な働きかけを行うとともに、栗原の特徴的な文化財をパネルなどで紹介し、文化財への興味を高めるよう取り組みます。

- ・ スポーツの推進につきましては、市民の健康増進、世代間交流、地域の活性化のため、競技協会等と協力し、市民が行うスポーツ活動を引き続き支援します。